

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500864
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホーム みんなの家・宮原
所在地	埼玉県さいたま市北区宮原町1-530
自己評価作成日	令和2年11月18日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/11/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念でもある「その人がその人らしく笑顔で生活できるホーム」を念頭に、ご利用者様やご家族様一人一人の思いや希望に寄り添ったケアの提供に努め、ご利用者様に貢献できる施設を目指しております。ご利用者様と職員が参加する園芸倶楽部を設置しています。園芸作業やフラワーアレンジメント、切り絵、苔玉作りなど様々な活動をしています。玄関前やホーム内は、季節の生花や鉢植え、観葉植物を置き日々の生活に彩りを添えています。また、近隣のスーパーマーケットでの買い物やショッピングモールでの飲食を実施し、社会との繋がりを大切にしています。最近では、隣にできた保育園との交流をしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

埼玉新都市交通伊奈線・ニューシャトルの加茂宮駅より徒歩約5分のところにある鉄筋コンクリート3階建ての3ユニット(27部屋)のグループホームである。近くに大宮加茂宮郵便局、ドラッグストア、スーパーマーケット、公園があり、生活の利便性が良い環境にある。同法人が運営する住宅型有料老人ホーム「すこや家・宮原」が併設されており、新型コロナ発生前はイベント等に相互で行き来したり、隣の保育園との交流を図ったりしていたが、新型コロナの終息まではこれらの交流を控えている状況である。外部との交流を自粛しているため、施設内の納涼祭や誕生日会等のイベントは積極的に行っており、家族や地域に向けブログにて施設の現状の情報を発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

-3.4.12
介護保険

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念である「その人がその人らしく笑顔で生活できるホーム」をいつでも念頭における様、スタッフルームに掲示し、参考資料や文献整え、理解が深められる様になっている。	理念を玄関、各階のスタッフルームに掲示し、フロア会議で職員に周知、確認をしている。理念にある「その人らしさ」を見つけるため、認知症の理解等の勉強会を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア、夏祭りや敬老会等の年間行事に参加下さっている。事業所の玄関には、行事やイベントの案内を掲示し、参加を呼び掛けている。	自治会に加入しており、従来は自治会を通じて情報を得たり、事業所の現状を発信していたが、コロナ過のため、ボランティア受入も含め、現在は一時的に地域との交流を止めている。ホーム内での行事は行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域皆様方に年間行事やレクリエーションに参加して頂き、利用者様との交流の中から認知症について理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、利用者様、地域包括支援センター担当者に参加頂き意見交換しサービス向上に努めている。地域の高齢者の踊り、歌の発表の場として、施設を提供できている。AEDを設置しているということで地域に安心感がある。	家族、地域包括支援センターが参加の会議を開催をしていたが、コロナのため中断をしている。ホームの情報はブログや毎月、家族宛に手紙で発信している。意見などは電話や郵送で受付をしている。	地域の理解と支援を得るため、運営推進会議では事業所の一方通行のお知らせにとどまらず、相互扶助の関係を目指し、積極的な働きかけが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常の相談及び事例発生時には、その都度対応し窓口にて連絡・相談している。運営推進会議開催時には、市の担当者に連絡し参加を促している。	運営推進会議への参加要請をし、オレンジカフェの開催時には参加している。市への報告事項があればその都度連携をとり合っている。必要があればいつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ運動を推進し内容はスタッフルームに掲示している。安全対策委員会(法人開催)やセミナー(法人開催)に参加し、内容を職員へ周知している。	スタッフルームに身体拘束ゼロ運動を掲示し、職員が常に意識するようにしている。定期的開催の委員会では新しい情報等の資料を配布したり、身体拘束の研修を受けた者が他の職員に勉強会を開催するなど、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内容は、職員会議にて事例検討を行い問題提議する中から高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また、セミナーや研修に参加した職員より情報や新し知識を学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、そこで得た知識を職員会議等で話し職員が理解できるように努めている。また、パンフレットもホームに置きすぐ活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問の生じやすい内容については、特に時間を掛け説明し、入居後も相談しやすいよう声かけや場の提供をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者様の言動を理解しご意見を伺える機会を大切にしている。苦情・相談窓口を設け玄関には意見箱を設置している。又、法人から定期的にご家族様アンケートを取り運営に反映させている。	日々の関わりの中で「何を希望しているのか」の把握に努めている。苦情や相談について、契約時に外部機関やホーム長、本社の相談窓口があることを説明している。現在、本社直通の意見用紙を玄関に設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、意見交換、提案を聞く機会を設けている。会議での決定事項は、掲示し周知できる様にしている。	現在は職員会議に代え、フロア会議で職員の意見を聞いている。ホーム長は普段より職員が気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めており、様々な意見、提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議・フロア会議を定期的に行い、意見交換や提案する事によりやりがいや向上心が持っている環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人による研修及び外部研修参加する機会を設けている。日々勤務の中、疑問点や必要と思われる要項についてはその都度指導し職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・会議の参加を通し交流を持ち情報交換している。連絡網を作りいつでも意見交換や訪問ができる様な取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・問い合わせや入居時にじっくり話しを聞き、何に困っているか理解し解決等を共に考えております。入居前にアセスメントを参考にカンファレンスを行い職員間の情報の共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から入居担当者窓口と連携を持ち気持ちの理解に努めている。入居後の様子をお伝えする連絡を密にし、意見を出しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前アセスメントや暫定プランに反映させ職員への周知を図り安全にお迎えできる体制作りをしている。必要に応じ、特記事項の記入をし、細かい情報収集に努めている。又、入居の際説明し「その人に必要なサービスの提供」をいち早く行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩として一緒に生活する中で沢山の助言・意見を頂き、日々の生活に活かしている。また、人生経験からの発言や行動から感動を利用者様から頂いており職員のエネルギーとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリング参加や面会・家族会・行事の参加などで意見を伺えるようにしている。又、利用者様を共に支えあうパートナーとし、入退院・看取りに対しても相談し支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人たちと交流が持てる様、行事のご案内や家族会開催時、ご家族様を通しお誘いくださる様お願いしている。	入居前の実調や契約時に馴染みの関係の情報を得ており、普段の会話からも引き出すよう心掛けている。現在、コロナ禍で外出や面会の制限を行っているが、電話でのやり取りなどを支援し、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の交流が難しい方が多いが、お互いに心地良い距離感を持っていただけるような声かけ・席順を考慮し、一人ひとりを尊重できるような支援をしている。参加で他のフロアとの関係づくりも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも利用者様・ご家族様との関係は良好に保たれている。年賀状やお手紙を出し、御家族様ともいつでも相談し合える付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと個別に向き合い、話しを傾聴する中からその時々のお思いを受け止め、ご希望や意向が生活に反映できる様に努めている。困難な場合は、その人らしい生活ができる様検討し実施している。	日々の業務や関わり、会話の中から、一人ひとりの思いや希望を確認し、生活に反映出来るよう検討している。現在、意向の把握が困難な方はいない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴も大切に考えアセスメントやライフレビューなどご家族様に協力頂いており、本人から聞いたエピソードなども職員間で共有し日々のケアに生かして行けるようにしたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態に応じた対応に心がけ、声かけや呼びかけも自然に行えるよう、入浴・排泄・食事など介助の伴う時は特に慎重に職員間で情報の共有が出来るよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と親交を深ることにより、面会時に家族と利用者の同席の中意向を伺う事ができている。また、ご家族様からの意向書を基に利用者お気持ちを伺う様にしている。	計画作成担当者を中心に職員で話し合い、本人や家族の意向を確認しながら計画を作成している。入居時に暫定の計画書を作成し、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と見直しを行っている。モニタリングは毎月行い、状態変化の都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を実施できる様、介護計画を2部用意し介護計画に沿った支援を実践し記録に残している。フロア会議後ケア会議を開き職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の声に耳を傾け、その時々生まれるニーズに対し可能な限り実施しています。すぐに出来ない事に対しても利用者様、ご家族様と相談しながら支援でき様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り前には、地域の方が盆踊りの指導に来て下さる。敬老会には、地域の有志による新舞踊や歌の発表会を開催している。定期的に防火訓練実施している。また、非常時の避難経路や場所について運営推進会議にて話し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族受診対応時は日々の状況を書面にて渡している。介助が必要な時は職員の同行対応も可能である。居宅管理指導の面でも細かく対応しており家族の都合によっては職員の受診対応が可能である。	入居前のかかりつけ医に継続受診が可能である。家族対応の通院時にホームでの様子がわかる書面を渡し、受診後は家族から結果を聞き、通院報告書を作成し、情報共有している。定期的な内科、歯科の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師から医療面での相談や指導に当たっている。状況に応じ、かかりつけ医と連絡を取り合い適切な指示をもらえるような体制を取っている。状況により訪問看護師の活用も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との連携は基より入院時には病院へ訪問し状態の把握に努めている。また、ご家族様のご了解を頂き入院時の治療計画や退院時のお話の際、同席する事もある。普段より病院CWとの連携も取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には「重度化した場合の対応に係わる指針」について説明し同意書を頂いている。終末期の際も主治医・看護師・ご家族様と繰り返し話し合いを行い出来ること・出来ないこと・何を優先し考えるか・ご家族様や利用者様の希望をどこまで安全に叶えられるのかを課題とし話し合いを重ねている職員間へも方針を理解できるよう話し協力体制を築いている。	入居の契約時に重度化した場合のホームで対応できる範囲について説明している。状態が悪化した際には家族と話し合いの機会を持ち、対応について方針を決めている。ホームでの看取りを希望し、可能であれば対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを含めた救命講習を職員が受けている。急変時や事故発生時に対応できるよう対応表を作成しており、フロアに掲示している。日常の利用者様の些細な変化に気づけるよう、会議で情報の交換をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を行ったり、運営推進会議にて地域の方の協力体制のお願いをしている。当日勤務の担当者の対応表を作成し、スムーズな動きが出来るようにしている。	10月に火災を想定した避難訓練を行った。コロナに配慮し、ホームの隅に移動する等の工夫をしている。地域の方に参加協力の依頼をしているが実現には至っていない。災害時の備蓄は現在準備中である。	コロナ過により動きの制限がある中、避難訓練開催は評価されるが、災害は火災だけではなく、いつ起こるか分からないことから、様々な想定した訓練や地域との協力体制が築かれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけしている。名前の入った物は、直接見えない様に廃棄しプライバシーの保護している。職員同士の情報の共有をしながらも個人情報の取り扱いには注意を払い保管先の徹底を行っている。	本社の通達でプライバシー保護を徹底しており、会議などで周知している。普段から言葉掛けでの声の大きさ等を注意し合い、穏やかな雰囲気となっている。排泄、入浴での同性介助の希は可能な限り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に意見を伺ったり、日常の会話から思いを汲みケアに結び付けている。ご自分で決定して頂ける様、声かけに留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のお一人お一人の趣味や意向を取り入れたレク活動が出来る様取り組んでいる。また、食事、入浴等については、ご自分のペースが保たれる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に声かけしご希望伺い、身だしなみが整えられる様支援している。。3ヶ月に1度の訪問理容を実施し希望のヘアスタイルにされたり毛染めをされている。ご家族と馴染みの理容室へ出かける方もいる。シニアセラピーにて顔・足のマッサージを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に合った陶器の器に盛り付けをし提供している。茶碗や湯呑、箸などは、一人一人違う物を使用している。職員と一緒に食事の後片付けやおやつ作りしている。	食事は専門業者に委託しているが、月に1回程度、意見を募り、おやつを手作りしている。餡子好きの方が多く、どら焼きやおはぎなど、入居者の楽しみとなっている。行事の食事も好きなものを聞き、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表を活用し摂取状況の確認をしている。個人に合わせ食事量や形態別の準備をしており状態により代替品や嗜好品の準備もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員一人一人が口腔衛生の大切さに着目しており、毎食後各居室にて実施している。歯科Dr・衛生士による口腔ケアの指導にて清潔を保つ方法も頂けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のしぐさや排泄チェック表により排泄を予見し、さりげない誘導を心掛けている。個人の身体状況に応じた排泄介助を行っている。	その方に合った排泄の対応をしている。夜間はオムツの方でも日中は原則外している。チェック表で確認し、様子の変化を見計らいトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状態を把握し、医療との連携し便秘の予防に努めている。乳製品を個別に用意し日常生活の中で体操や散歩などで自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される時間や入浴日も出来る限り応じている。入浴時間を楽しんで頂ける様、菖蒲湯や柚子湯などで季節を感じて頂き、数種のボディ・ヘアシャンプーを用意している。	入浴は週2回、午後を基本としているが希望や行事の際には午前にしたり曜日を変更するなど、臨機応変に対応している。シャンプーなどは各種用意し、選んで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを理解し夜間の対応についての個別プランを作成し対応している。日々の申し送りで日中の過ごし方に注意し必要であれば日中の検討も行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬情報説明を確認し、指導内容を職員間で申し送りにて情報の共有に努めている。薬ノートを作成したり、処方変更があったときには特記事項を記入し、薬剤師と連絡の取り合える体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのレクを取り入れたり、生活の中で得意とする事や、洗濯たたみ・掃除・書き物・園芸など積極的に行なうことで「出来ることをする」「普通に生活してゆきたい」という意欲が出た。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーや薬局へ希望により買い物に行っている。ボランティア様の協力により、外部の習い事に定期的に通われている。事業所玄関先や中庭にベンチを数多く設置しており短時間でも過ごせる様に工夫している。中庭へ出る際スロープがあり車椅子の方でも外へ出やすい環境である。	現在は安全面を配慮し、外出を控えているが、近くの公園に少人数で散歩したり、施設の中庭に出て外気浴でリフレッシュして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーマーケットにご自分の好きなおやつや果物を買に出かけている。レジの前にお金をお渡しして会計して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望でご家族様の了解を得て頂いている方に対してお手紙を書かれています。また、希望により電話をかけて頂いたり、取り次ぎしお話しして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の生花を飾り、居間や廊下、トイレには鉢植えやのれんを掛け居心地の良い環境作りに努めている。畳には、テーブルや布団を置きカーペットを敷きゆっくり過ごせる空間を作っている。	玄関、廊下、フロアは窓からの採光で明るく、加湿器をフロアに設置し湿度対策を行っている。壁には入居者が作成した切り絵などが飾られ、フロアではテレビをみたり塗り絵を楽しむ方など和やかな雰囲気暮らしている様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分で居場所の選択ができる様、椅子やソファを配置している。お一人で過ごしたり、談笑出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと整理ダンスは事業所で用意されているが、強制ではなく利用者様の希望を優先している。机、パソコンなど狭いながらも自分の使い慣れた物に囲まれ自分だけの空間作りをされている。	居室にはベッドやチェスト、洗面等が備え付けられており、希望で好きな物を持ち込んで頂いている。家族との写真や誕生日にホームから送られた写真付きの色紙が飾られ、楽しい日々を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体に段差がなく、必要などころには手すりが設置されている。死角になるなどころには利用者様一人でも安全に過ごせるような環境作りに努めている。		

目標達成計画

作成日:2020年12月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		災害時の地域との連携、協力体制の見直し。防災訓練等に、地域の方に積極的に参加していただく。	地域の方々にも、避難訓練等に参加していただく。	地域住民への協力要請、参加を促す。	12ヶ月
2		運営推進会議への、地域住民や行政の参加が得られず、ご家族様の参加も少ない。	毎回、地域住民(自治会長等)や行政(北区役所職員)や包括の参加。ご家族様は過半数の参加。	年6回運営推進会議の開催日を見直し、平日開催を実施する。民生委員、行政機関には、一ヶ月前には開催日を連絡する。開催日時や、曜日の固定を図る。地域には、ポスターにて開催を告知する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。